

特定行政庁より報告を受けた建築物における事故の概要

(平成22年12月1日～)

※前回部会において調査終了とされたものを除く

特定行政庁より報告を受けた建築物事故の概要

(平成22年12月1日～平成27年3月31日)

事故内容	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	事故件数	被害者あり (うち死亡)	事故件数	被害者あり (うち死亡)	事故件数	被害者あり (うち死亡)	事故件数	被害者あり (うち死亡)	事故件数	被害者あり (うち死亡)
部材の落下	5	3(0)	16	9(0)	13	7(0)	5	3(0)	7	2(0)
壁タイル等	3	1(0)	10	3(0)	6	2(0)	3	3(0)	6	1(0)
天井	1	1(0)	4	5(0)	4	3(0)	2	0(0)	0	0(0)
看板	1	1(0)	1	1(0)	2	2(0)	0	0(0)	1	1(0)
テラス等	0	0(0)	1	0(0)	1	0(0)	0	0(0)	0	0(0)
転落	3	3(1)	4	4(3)	5	9(2)	1	1(0)	2	2(2)
ドア・門	0	0(0)	1	1(0)	2	2(0)	1	1(0)	0	0(0)
シャッター	1	1(1)	2	2(2)	2	2(2)	0	0(0)	1	2(0)
工事現場	1	0(0)	9	7(0)	3	2(0)	3	1(0)	5	3(1)
自走式駐車場	0	0(0)	2	1(1)	2	4(0)	0	0(0)	0	0(0)
ガラス	0	0(0)	1	1(0)	1	1(1)	0	0(0)	0	0(0)
倒壊	0	0(0)	1	2(1)	2	4(0)	0	0(0)	1	0(0)
その他	0	0(0)	0	0(0)	1	0(0)	2	0(0)	0	0(0)
合計	10	7(2)	36	27(7)	31	31(5)	12	6(0)	16	9(3)

注1) 「平成22年度」は、平成22年12月1日から平成23年3月31日までの件数等である。

※ 特定行政庁等から情報提供があった建築物に関する事故であって、社会資本整備審議会建築分科会建築物等事故災害対策部に報告された事故の概要を掲載(平成27年3月31日までに報告された事故の概要を掲載)

1. 事故内容:部材の落下

1-1: 前回の部会までに報告し、調査が終了していなかった事故

発生年月日	発生場所	建築物用途	状況	被害の程度	調査の状況・事故原因	再発防止策
H24/12/08	岡山県内	ホテル、商業施設	地上約30m上のガレリア天井に取り付けられているエキスパンジョイント部のアルミパネル1枚(1m×0.6m、重さ約4.4kg)が落下した。	なし	○特定行政庁において調査を実施。 ○アルミパネルの取付ビスが下地まで達していなかったこと及び締め付けが完全でなかったことが原因と考えられる。	○エキスパンションジョイント部、屋根パネルを撤去し、新たに片持ち型屋根を設置。
H25/05/25	岡山県内	ホテル、商業施設	2階広場の天井に取り付けられたアルミ製部材1個(14.0cm×3.5cm、厚さ約2.0mm約36g)が床に落下した。	なし	○特定行政庁において調査を実施。 ○担当者が工事監理者に確認せずに、施工内容を変更したこと及び接着力の経年劣化を考慮せずに、両面接着テープでアルミ製部材を取り付けたことが原因と考えられる。	○取り付けられていた天井部材全ての撤去を実施。
H26/08/26	京都府内	倉庫兼住宅	倉庫兼住宅において、5階窓のモルタル製上枠(幅約3.3m)が建物前の歩道及び車道に落下した。	なし	○特定行政庁において調査を実施。 ○建物の老朽化によるものと考えられる。	○落下の危険がある場所について、歩道及び車道の通行規制を実施。 ○落下のおそれのある箇所について、アルミ製窓枠への改修を実施。

1-2: 前回の部会以降に追加した事故

発生年月日	発生場所	建築物用途	状況	被害の程度	調査の状況・事故原因	再発防止策
H26/11/30	大阪府内	共同住宅	6階建て共同住宅の屋上パラペット部分の外壁タイルが落下した。(落下範囲:幅5m×高さ0.9m)	なし	○特定行政庁において調査を実施。 ○タイルの下地材の腐食が原因と考えられる。	○危険箇所のタイルを乾式パネルへ変更し、笠木をアルミ製へ変更する改修を実施。
H27/02/10	東京都内	貸店舗	ビル6階と7階の外壁タイルが躯体から剥離。その一部が地上まで落下した。	なし	○特定行政庁において調査を実施。 ○経年劣化によりモルタル下地が躯体から剥離したことが原因と考えられる。	○所有者において建物の外壁タイルの改善を実施。

発生年月日	発生場所	建築物用途	状況	被害の程度	調査の状況・事故原因	再発防止策
H27/02/15	北海道内	飲食店	外壁に緊結された看板の一部(縦30cm×横142cm×奥行30cm、取付高さ約15m)が落下し、歩道を通行していた歩行者の頭部に当たった。	重傷1名	○特定行政庁において調査を実施。 ○看板のベースプレートとアンゲル枠を溶接していた部分が腐食したことにより強度が低下し、事故当時吹いていた強風により落下した可能性が考えられる。	調査中 ○落下した北側看板及び同型の西側看板は撤去済み。 ○その他の既設看板等については点検を実施し、早急に対応が必要な劣化、損傷がないことを確認。
H27/03/19	神奈川県内	店舗、事務所	8階ベランダ底の外装タイルの一部(約1m×2m)が、鉄骨下地と共に落下した。	軽傷1名	○特定行政庁において調査を実施。 ○外装タイルの下地部分の鉄骨の腐食が原因と考えられる。	調査中 ○外装改修工事の計画書の提出を指示。
H27/03/22	京都府内	事務所併用倉庫	外壁の4階窓上からパラペットまでの部分が、全幅にわたり落下し、駐車車両3台及びカーポートを破損した。	なし	○特定行政庁において調査を実施。	調査中 ○落下の危険を知らせる注意喚起を掲示する。 ○改善計画書を提出するよう指示。

2. 事故内容:転落

2-1: 前回の部会までに報告し、調査が終了していなかった事故

発生年月日	発生場所	建築物用途	状況	被害の程度	調査の状況・事故原因	再発防止策
H26/06/20	岩手県内	ホテル	ホテルの7階客室において、客室の窓(床から窓台までの高さ40cm、有効開口幅22.5cm)から3階の屋根部分に転落した。	死亡	○特定行政庁において調査を実施。 ○事故、事件の両面から調査中。	調査中

2-2: 前回の部会以降に追加した事故

発生年月日	発生場所	建築物用途	状況	被害の程度	調査の状況・事故原因	再発防止策
H26/12/12	東京都内	飲食店	9階のトイレ個室にある外部に面した扉から隣地の建物との間に転落した。	死亡	○特定行政庁において調査を実施。	調査中 ○外部に面した扉のあるトイレ個室を使用禁止中。

3. 事故内容: 工事現場

3-1: 前回の部会までに報告し、調査が終了していなかった事故

発生年月日	発生場所	建築物用途	状況	被害の程度	調査の状況・事故原因	再発防止策
H26/04/03	兵庫県内		解体中の建物において、足場(高さ約16m、幅約18m)が道路側へ倒壊し付近を通りかかった2名が下敷きとなった。	重傷1名 軽傷1名	○特定行政庁及び地方整備局において調査を実施。 ○重機で建物を解体する際に、仮設ワイヤ設置等の倒壊防止対策を怠ったため、鉄骨やコンクリートが道路側に崩落し、隣接する足場を倒壊させたものと考えられる。	○倒壊した足場の撤去を実施。 ○工事現場の危害防止の徹底について届出の機会等をとらえ周知。 ○建築関係団体に対し、工事現場における安全管理の徹底について依頼。
H26/06/20	京都府内	共同住宅 保育所 児童館	工事中の建築物1階の屋上において、作業者が単管パイプ用のクランプが入ったケースを運搬中、エアコン室外機の台につまずき、クランプ2個が隣接する保育園の屋根(ポリカーボネート製)に落下し、屋根が破損した。	なし	○特定行政庁において調査を実施。 ○資材を運搬する作業者の不注意によるものと考えられる。	○保育園の休園日に安全対策を行った上で、工事を再開し、工事完了。
H26/08/21	東京都内		解体中の建物において、仮囲い付近の山留用シートパイルを撤去する際に、仮囲いの支柱が障害となるため、支柱を撤去したところ仮囲いのパネルが道路側に倒壊し、歩行者(1名)がパネルと歩道のガードレールの間に挟まれた。	死亡	○特定行政庁において調査を実施。 ○山留め用シートパイルを引き抜く際に仮囲いの支柱を撤去したが、支柱を復旧せずに次の支柱を外す作業を続けていったため、仮囲いの荷重に支柱が耐えられず、仮囲いのパネルが倒壊したものと考えられる。 ○仮囲いの設置・撤去作業手順書にシートパイル引き抜き作業との同時作業の手順は示されていないなかった。	○シートパイルを引き抜く際には仮囲いを支柱が不要な基礎付きのものに交換。 ○管理者を増員。

3-2: 前回の部会以降に追加した事故

発生年月日	発生場所	建築物用途	状況	被害の程度	調査の状況・事故原因	再発防止策
該当なし						

4. 事故内容:その他

4-1: 前回の部会までに報告し、調査が終了していなかった事故

発生年月日	発生場所	建築物用途	状 況	被害の程度	調査の状況・事故原因	再発防止策
H25/03/12	京都府内	工作物	タワー上部(地上から約46m付近)が破断し、ナセル(発電機付き約38トン)及びブレード(3枚羽根、直径50m、約2.4トン/枚)が落下した。	なし	<p>○特定行政庁において調査を実施。</p> <p>○タワートップボルトが疲労により折損(17本)し、タワー溶接部の応力の増大により、溶接止端部近傍の内面で疲労亀裂が発生し、ナセルが落下したものと考えられる。</p>	<p>○定期点検において、タワートップボルトのトルク確認の強化及び超音波探傷を実施し、タワートップボルトの亀裂を早期発見。</p> <p>○ボルト交換時等のマニュアルの整備し、再発を防止及び維持管理の徹底。</p>

4-2: 前回の部会以降に追加した事故

発生年月日	発生場所	建築物用途	状 況	被害の程度	調査の状況・事故原因	再発防止策
該当なし						